

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和6年度6月号

### ○ 概要

- (1) 令和6年度6月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,581億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲2.0%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,133円（伸び率+1.2%）であった。（→P.1,2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が1,839億円（伸び率▲1.3%）、薬剤料が4,729億円（伸び率▲2.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が887億円（伸び率▲4.7%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,108円（伸び率▲0.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.75種類（伸び率▲0.5%）、27.2日（伸び率+2.4%）、68円（伸び率▲2.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,681億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲138億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の711億円（伸び幅▲6億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+25億円（総額150億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,681億円 (▲138億円)	39 その他の代謝性 医薬品(711億円)	21 循環器官用薬 (519億円)	11 中枢神経系用薬 (510億円)
0歳以上 5歳未満	18.6億円 (▲4.7億円)	44 アレルギー用薬 (5.2億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6億円)	61 抗生物質製剤 (3.2億円)
5歳以上 15歳未満	90.0億円 (▲2.0億円)	44 アレルギー用薬 (29.0億円)	11 中枢神経系用薬 (25.6億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.8億円)
15歳以上 65歳未満	1,394億円 (▲47億円)	39 その他の代謝性 医薬品(270億円)	11 中枢神経系用薬 (265億円)	42 腫瘍用薬 (159億円)
65歳以上 75歳未満	764億円 (▲73億円)	39 その他の代謝性 医薬品(177億円)	42 腫瘍用薬 (132億円)	21 循環器官用薬 (122億円)
75歳以上	1,414億円 (▲11億円)	39 その他の代謝性 医薬品(256億円)	21 循環器官用薬 (235億円)	42 腫瘍用薬 (185億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,133円（伸び率+1.2%）で、最も高かったのは高知県（10,975円（伸び率+0.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,035円（伸び率+3.4%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは福島県（伸び率+4.1%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲1.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	86.0 %	+1.5 %
薬剤料ベース	18.8 %	▲0.5 %
後発品調剤率	79.2 %	▲0.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.3 %	▲1.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.7 %	+1.6 % (15歳以上 20歳未満)	▲28.1 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.8 %	28.7 % (100歳以上)	10.8 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	86.0 %	89.7 % (100歳以上)	82.5 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	752 億円 (▲42 億円)	21 循環器官用薬 (234 億円)	11 中枢神経系用薬 (133 億円)	23 消化器官用薬 (91 億円)
0歳以上 5歳未満	6.3 億円 (▲2.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	14.8 億円 (▲1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (8.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)
15歳以上 65歳未満	267 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	154 億円 (▲17 億円)	21 循環器官用薬 (60 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75歳以上	310 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (50 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,232 円	1,602 円(秋田県)	1,065 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.6%	+2.4 % (愛媛県)	▲4.0 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	86.0 %	91.8 % (沖縄県)	82.7 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.8 %	21.4 % (山形県)	16.5 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.2 %	84.9 % (沖縄県)	75.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.3 %	64.7 % (沖縄県)	54.6 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。